

# 白子神社だより

令和七年 夏 第十七号

## 遷座祭 ご齋行



手伝ってもらいながら神さまをご本殿からお出ししました。宮司も神さまをわが手の中に抱くと言うことはとても珍しいことですのでとても緊張しました。

特にご本殿の幅の狭い階段を降りる時には慎重に事にあたりました。無事に降りた後、神さまを先頭に氏子総代や宮座、責任役員が拝殿から幣殿に列を作って向かいました。そして神さまには、幣殿の一番奥にお移りいただきました。

これによつてご本殿には神さまは工事が終わるまでご本殿にはいらつしやらないことになります。

工事は、三年かかる予定です。修復が終われば神さまにお戻りいただきます。また遷座祭が行われますが、その遷座祭は、「正遷座祭」（しょうせんざさい）と申し上げます。三年後を予定しています。

二百六十年前の創建当時になるべく戻そうと修復工事は行われます。完成を楽しみにしたいと思います。皆さまご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 令和七年度始まる

白子神社は、新しい体制で令和七年度が始まりました。

各地区から選ばれた氏子総代の皆さんのご協力を得て、宮司、職員（宮番）、宮座、責任役員、特別顧問一体となつて神社をお守りします。

新年度の役員の皆さんをご紹介します。

### 氏子総代会

会長 齋藤 一彦（驚西）新

副会長 高橋 志徳（福島）

三橋 尊雄（牛込東）新

緑川 健（中川岸）

御園 茂（中里中）

宮田 清之（八斗東）

原 彰孝（北川岸）新

峯嶋 春美（中里東）

片岡 修（南日当）

大多和義徳（関北）

五十嵐 孝（驚東）

竹内 誠（剃金東）

市川 功典（牛込中）新

石井 秀明（関西）

吉野勝智（幸治西）

三浦 一之（牛込西）新

### 氏子総代

岡澤 和男（関東）

大多和 正（関南）

宗島 宣夫（幸治東）

野口 秋男（中里西）

大矢 正（八斗西）

御園 輝雄（五井東）

緑川 弘（南川岸）

板倉 親夫（古所西）

田邊 茂明（五井西）

長嶋 和雄（剃金西）

渡辺 克己（牛込新田）新

鶴岡 達正（浜宿東）新

深山 友子（浜宿西）新

責任役員の森川隆吉に変わり齊藤伸一が就任しました。

その他は、すべて留任です。

（敬称略）

六月二十二日（日）の**氏子健康祈願**

祭、神事後、健康についての講演

は東京の榊原記念病院 副院長の

**高橋幸宏**さん（六十九歳）をお願い

しました。

高橋さんは小児心臓外科医でこれまで七千人の赤ちゃんの命を助けた名医です。出身は、九州の宮崎県、生まれ育った故郷の神社を守りたいと昨年神職の資格を取得されました。

## 観音堂地区と白子神社

白子神社は、白子町関にあります。その関の中の「観音堂」地区（地元の人には「かんなんどう」とおっしゃっているようです）にあり、観音堂が地元中の地元と言えるでしょう。観音堂の皆さんには日常的にお世話になっています。

南鳥居の南側に高いポールがあり、お祭りの時などに日の丸の旗が掲げられます。また秋の例祭の前になるとこのポールに稲わらで編んだ亀形の見事な飾りが掲げられます。こうしたことをしてくださっているのが、観音堂の皆さんです。

宮司は、深く感謝しております。観音堂の世話人の古山 剛さんに白子神社と観音堂の皆さんの関りについて記してもらいました。

白子神社は、地区の人の話では、かつて子どもたちの遊び場でした。神社の縁の下に入ったり、友達とめんこ遊びや野球をしたりと遊び場として活用されていました。子どもたちにとって、今よりも白子神社はもっともっと身近だったように思います。

思い出されるのは、毎年3月の春祭りとお田植祭の儀式です。お田植祭は白子の大神さまのお力によって五穀豊穡を祈る祭りで、とても楽しみにしていました。祭りの準備を



しながらその日を待ったことを覚えていています。

秋祭りも忘れることができません。豊作を感謝して囃子声も高らかに神輿を担ぎました。見守る人たちの間を縫って神輿行列が海岸へと進んでいきました。

神社の境内には、見世物小屋や紙芝居、金魚すくい、輪投げ、射撃などとても賑わっていました。この他、露天商では大判焼きや日用品、鍬、鎌、桶、植木などが売られていました。白子町だけではなく町外からもたくさんの方が訪れ、とても賑やかでした。皆さんがお祭りを楽しみにしていました。

こうした白子神社の伝統はこれからもぜひ引き継いでいただきたいと思っています。

古山さんありがとうございました。白子神社は、かつて大変にぎわっていたことはよく耳にします。

特に農機具市が盛んだったようです。これからも地元中の地元である観音堂の皆さんのご協力を得てかつての賑わいを取り戻したいものだと考えています。

また観音堂の皆さんにとって白子神社は地元の会合があると集ま

る場所でした。ところが今は多くの

人たちが神社にお参りにいらつしやいますのでそれが叶わなくなりました。宮司は、申し訳ないと思っています。お話ではかつて観音堂の人たちは白子神社の拝殿でお酒を酌み交わすということなさっていたそうです。

できればそうしたことも復活できなにかと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

## 神社面白話 夏越の大祓

日本人は、古くから年に2回、6月30日と12月31日に大祓をしてきました。6月の大祓を夏越の大祓と言います。大祓の詞（ことば）というのがあります。私が神職の勉強を始めた時、まず最初に覚えてくださいと先生に言われました。20年以上も前のことです。大祓の詞の書付を常にポケットに入れ電車でもバスの中でも覚えるために頑張りました。

神職の基本中の基本ですね。

大祓の詞は、もっとも古い祓詞です。およそ900字、天武天皇以前にすでにあったと言われています。我が国の成り立ち、国のあり方、天皇統治の在り方、国民の罪を祓い清めて、正しい人間になるためにはどうしたらよいかがおそそかに宣言されています。

少し難しいですが、なかなかの名文です。

皆さんも一度お読みになってはいかがでしょうか。

白子神社では、6月30日午後2時から大祓があります。どうぞお越しください。そして今年の後半を爽やかに過ごして下さい。